

「名高応援団」の設立について

1 設立の経緯

(1) 本校の変遷

本校は、大正11年（1922年）に開学した北海道庁立名寄中学校と、昭和2年（1927年）に開学した名寄町立名寄高等女学校を母体として、昭和25年（1950年）の併合により現在の校名である「北海道名寄高等学校」となりました。

その後、幾多の変遷を経て、令和5年（2023年）に北海道名寄高等学校と北海道名寄産業高等学校を再編・統合し、普通科と情報技術科を併置する新たな「北海道名寄高等学校」となりました。

道北地域の拠点校としての役割を担い、これまで2万人を超える卒業生を輩出し、地域の発展に寄与しています。100年を超える歴史と伝統を継承しつつも、変化を恐れず、今なお新たな挑戦を続けています。

(2) 本校を取り巻く環境

本校は令和7年度から「名寄市内唯一の高校」となり、進学・就職・人材育成を一手に担う存在となります。これは「地域の未来を背負う存在」としての責任の重さを意味しています。しかしながら、現在、少子化の進展により、上川北学区（和寒～中川）の児童・生徒数は年々減少しています。中学校の生徒数の減少は、高校進学者数の減少につながり、本校も例外ではありません。

学級数（間口）が減れば、教員数や学校に配当される予算も削減されます。このことは、教育内容の縮小や選択肢の減少につながり、地域の若者が都市部へ流出する要因ともなり得ます。

【上川北学区の中学卒業生数の推移】

	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 11	R 14
学区内中卒者数	420	398	394	374	342	322	345	300
名寄市中卒者数	183	178	187	186	163	167	166	138
士別市中卒者数	127	109	119	78	99	86	90	83

(3) 持続可能な学校運営の必要性

こうした状況を乗り越えるためには、次のことが不可欠です。

- ・学校単独の努力ではなく、地域社会全体で学校を支える仕組み
- ・教育活動の幅を広げるための外部人材の参画
- ・教育環境を維持・向上させるための安定的な資金的支援

そこで、本校は「名高応援団」を設立し、地域と学校が一体となって未来を拓く体制を構築します。

2 名高応援団の基本理念

名高応援団は、単なる支援組織ではなく、「地域と学校が共に育ち、未来を創造するためのパートナーシップ組織」です。学校の教育活動を地域に開き、理解と信頼を深める地域の知恵や力を学校教育に生かす若者の学びを支えることで、地域の持続可能性にもつなげるという理念を共有し、活動を展開します。

3 設立の目的

名高応援団は、以下の3点を柱とします。

- 教育活動の理解促進【つながる】
本校の教育方針・実践・成果を広く周知し、学校への理解と誇りを高めます。
- 人材の確保・活用【伝える】
地域や企業の協力を得て、授業・探究・部活動などに幅広い人材を参画させます。
- 経済的支援の確保【支える】
持続可能な教育活動を支えるために必要な資金を確保します。

4 具体的な活動内容

(1) 教育活動の理解促進

学校は、団員に本校の教育活動を定期的に周知する。また、生徒や教員とつながりをもつ機会をつくる。

- ・卒業生・地域住民に向けた「名高新聞」の定期発行（メール配信）
- ・HP・SNSによる情報発信強化
- ・地域イベントや公開授業での発表・展示
- ・学校行事（名高祭・総合的な探究の時間発表会・部活動大会）への招待

(2) 人材の確保・活用

変化の激しい時代に対応する質の高い教育を実現するため、学校は外部人材リスト等を作成するなど、教育活動への協力を求める。

- ・総合的な探究の時間や地域学での協力者
- ・アントレプレナー教育・主権者教育・消費者教育などの専門講師
- ・企業でのインターンシップ・ジョブシャドーイング受け入れ
- ・部活動外部指導者（スポーツ・文化活動両面）
- ・ICTや外国語教育の補助人材

(3) 経済的支援

学校は教育活動の実施に当たり校内予算で対応が困難な事象が生じた場合、応援団に支援を求める。今後、次のような事象が見込まれる。

- ・DXハイスクール終了後の情報機器更新・維持費
- ・最先端技術を有する人材による授業支援
- ・インターンシップ等の旅費支援（道内・道外）
- ・国際交流事業の推進費
- ・部活動指導者の旅費補助（地域移行準備）
- ・行事や大会に必要なバス借上げ費への対応
- ・名高グッズの作成

5 期待される効果

(1) 教育の質の維持・向上

専門人材や経済的支援により、都市部に劣らない学習環境を提供できる。

(2) 地域と学校の一体化

学校が「地域の学びの拠点」となり、交流と協力の輪が広がる。

(3) 若者の地域定着促進

地域に根差した教育により、若者が地域に誇りを持ち、将来の担い手となる。

(4) 同窓生ネットワークの強化

全国にいる卒業生が応援団を通じて結集し、母校と地域を支える。

6 運営方法

次の役職を置き、関係者に協力を依頼する。

- ・顧問：加藤 剛士 名寄市長
- ・団長：市川 聖 元名寄高校教諭
- ・副団長：今中 勇希 名寄高校校長
- 木賀 義友 名寄高校PTA会長
- 藤田 健慈 名寄商工会議所会頭
- ・事務局：商工会議所
- 永原 竜 名寄高校教頭
- 後藤 裕志 名寄高校事務長
- 黒井 理恵 名寄高校学校運営協議会委員
- ・監査：同窓会役員

なお、年1回総会（10月名寄高校同窓会と同日）を開催し、活動報告及び決算報告を行い、活動計画及び予算を決定する。

7 入団資格・加入方法

- (1) 入団資格
名寄高校を応援したい全ての個人・団体
- (2) 加入手続き
入団希望者は指定された **GoogleForm** に必要事項を入力する。事務局からの返信メールを受信する。
 - ・入力事項
必須：氏名、生年月日、メールアドレス、一般団員（無料）または特別団員（年間助成一口3,000円）
任意：住所、名高新聞の受信可否、卒業生かどうか、協力できる教育活動
- (3) 募集開始時期
 - ・先行募集：令和7年10月10日（金）
 - ・本格募集：令和7年10月31日（金）～

8 団員特典

- ・名寄高校新聞の配信（月1回程度）
- ・学校行事や総合的な探究の時間発表会への案内送付
- ・部活動や生徒会活動の活動報告を定期的に受信
- ・希望者の名前を学校HPに掲載

9 広報・周知方法

- 次の媒体に協力依頼する
- ・報道（北海道新聞、名寄新聞、北都新聞）
 - ・名寄高校公式HP・SNS
 - ・広報なよろ・ヨロカHP
 - ・同窓会（名寄・札幌・東京）での説明
 - ・コミュニティ紙やFMなよろでの紹介

10 将来の展望

- 名高応援団は、学校を支えるだけでなく、「地域の学びと人づくりのプラットフォーム」へと発展していくことを目指します。
- ・地域企業や大学と連携した共同プロジェクトの実施
 - ・道北エリア全体の高校や自治体との広域連携
 - ・同窓生ネットワークを活用したキャリア教育・進路支援
 - ・「名高モデル」として全道・全国へ発信できる地域教育連携の仕組みづくり
- これらを通して、名寄高校は「地域に愛され、地域に必要とされる学校」として未来へと歩み続けます。